

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域に密着したサービスを提供するという理念を踏まえ、毎月行われている職員会議の冒頭で理念を確認、共有し、実践につなげている。	職員会議において基本理念を読み合わせ、理念に沿った介護ができていないか具体的に振り返る時間を設けています。身体拘束についての勉強会を継続しており、日頃の言葉遣い(命令・禁止口調等)を見直し、尊厳を尊重した実践を目指しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の人達とは開所以来深い付き合いをさせていただいており、日々の生活において交流をしている。しかしコロナ感染症の拡大防止の観点から、昨年に引き続き敬老行事への招待は行っていない。	開所当時から地域に根差したホームとして、工夫しながら日常的な交流をしています。コロナ感染対策のため回数は減ったものの、近所の方を呼んで焼肉を庭で行うなどを続けています。食材のおすす分けや散歩の時に声を掛け合うなど、地域とのつきあいが続いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	研修会や実践から得た知識をもとに、認知症の人を抱える家族や地域の人達からの相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	委員は地域包括支援センターの職員、特養の所長等、それぞれの立場で活躍されている方々で、専門的な意見や助言をいただいております。サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は偶数月に実施しており、コロナ感染のため実施できない時は関係文書を送り、電話で意見を聞いています。会議の中では入居者の生活状況や職員研修等の報告を行っています。委員からは、感染症や研修内容の身体拘束・虐待防止等についてのアドバイスを頂き、サービスに活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	飯田市長寿支援課や自治振興センターの方々には、常に指導や助言をいただいている。平成31年から地域内の福祉事業所で立ち上げた遠山福祉会に参加し、地域の声を聴くなど情報交換を行っている。	運営推進会議の委員として地域包括支援センター管理者や、まちづくり委員の方がおり、事業所の状況や取り組みを伝え、協力関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアの具体的な行為について取り組んでいる。また、研修会や実践から得た知識をもとに、認知症の人を抱える家族や地域の人達からの相談に応じている。	虐待防止も含め身体拘束をしないケアについて、毎月の職員会で研修を行っています。言葉による暴力や拘束の事例をあげて、日頃のケアや言葉遣いについて見直すなど繰り返し学んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎月開催している職員会において、身体拘束をしないケアと、虐待に繋がる恐れがある事項について学習し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	介護サービス事業の実施にあたり、権利擁護は重要課題としてマニュアルを活用し学んでおり、その人らしい生活を送っていただけるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約締結時においては、契約書の内容と重要事項説明書について丁寧に説明し、入居者や家族の理解を得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	以前は、家族の来訪時に入居者の生活状況の他家族の要望等を伺っていたが、コロナ禍の現在は遠のいているため、毎月のお便りで、近況をお知らせしている。家族には定期的にアンケートを実施し、要望等を把握している。	運営推進会議には家族代表の委員が参加しており、意見を聞いています。家族には毎月お便りを届けて、ホームでの様子や状況を知らせています。また、年1回ターミナルについてのアンケートの最後の項で、要望や意見を記入してもらっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の職員会において、運営面等について話し合う機会を設けており、職員の働く意欲の向上と質の確保に努めている。	職員会議において、誰もが意見を言えるように時間を設けています。入居者が高齢化・重度化するなかで、安全に食事介助ができるような人員配置の希望がでて、検討してその時間帯の人員確保をするなど改善してきました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	介護職員処遇改善事業により給与水準の引き上げに積極的に取り組んでいる。また、休憩室を設置し、十分な休憩が取れるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ZOOMを活用し、職員一人ひとりが学びたいテーマを選びそれに沿った研修へ参加できるよう、インターネット等の環境を整え、実行している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナ禍だけではなく、当事業所は山間僻地の上、他事業所と遠隔地にあるため交流は容易ではないが、研修会等の機会に交流できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居者本人の思いを大切にするため真摯な気持ちで向き合い、信頼関係を築くことを心掛けている。特に入居初期は、馴染みが薄く孤立気味なのでアセスメントをしっかり行い本人の安心を確保している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時に、家族から困っていることや不安に感じていること、どのような介護を望んでいるかを伺い、介護プランに反映し安心と信頼関係を築くことを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族がどのような思いで、どのような介護を望んでいるかを明確にし、ケアプランを作成してサービス提供を実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者と職員は、一つ屋根の下で暮らす家族という気持ちで生活しており、暮らしを共にする者同士として明るく家庭的な関わりとその人らしい生活が送れるよう努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人と家族、それに職員が互いに連絡を密にし、ともに支え合っていくという関係を築いている。また、毎月「わたの家通信」を作成し行事や生活の様子をお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍の現状の中において容易ではないが、本人にとって大事な場所、馴染みの人達や場所の関係を深める支援を実施している。また家族との面会は、ガラス越しではあるが対応している。	家族との面会は、コロナ感染対策として玄関等でガラス越しで実施しています。近所の方とは散歩に出かけた時に話をしています。春のわらび採り、畑で野菜の収穫などは、今まで通り継続して実施できています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	多人数でできるゲームや体操をしたり、散歩や外気浴、野外での食事など利用者同士が関わり合い、支え合う環境づくりに積極的に取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	亡くなられた方の命日には、事情が許せばお墓参りを行っている。また、電話で話す機会を作ったりして関わりを断ち切らないよう努めている。		

自己	外部	項目	外部評価(評価機関記入)		
			自己評価(事業所記入) 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者一人ひとりの生活歴を把握し、趣味や大切にしていることなどを家族や本人から掘り起こし、その人の思いを大切に支持を実践している。	入居時に本人や家族等から生活歴や希望等、意向を聞いて支援に活かしています。日々の生活の中での会話や様子から、入居者の思いや意向を把握するように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	自分らしく生活していただくために、生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境等を把握し、ケアプランの基礎にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活歴を把握した上で、一人ひとりの過ごし方や心身状態、本人ができることや持っている力を引き出すことを努力をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプランは、本人や家族、関係者の意向や意見を尊重し、アセスメントとモニタリングを繰り返しながら、本人が快適で自分らしく生きることを重要課題としている。	介護計画作成者は入居者の担当職員や本人、家族等に話を聞きながら作成しています。モニタリングは、3カ月毎に介護計画の実施状況・達成状況・方向性を確認して、短期目標(6カ月)長期目標(1年)に反映し、現状に即した介護計画を作成しています。	今後アセスメントを充実させながら、職員が入居者の介護計画を念頭においていた介護を提供して、入居者がさらにより良く暮らせるように、チームとして工夫されることが望まれます。また、モニタリングの基になる日々の記録も見直しをされることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	いく種類もある記録の中で、個人別記録簿があり、日々の暮らしやケアの実践、気づきなどを記録しており、それらの情報を職員間で共有し、介護計画の見直しや日々の介護に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や家族の状況やニーズに対応して臨機応変に幅広い支援を実施しており、柔軟で多様なサービスを心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	山に囲まれた谷間にあり、豊かな環境と周辺住民に見守られ、安全で安心した暮らしを楽しむことができている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診は、本人及び家族の意向を尊重し、適切な医療を受けられるよう支援している。また、協力病院との連携や訪問歯科診療により口腔ケアにも取り組み、適切な医療が受けられるよう支援している。	ほとんどの入居者が、入居前から地元の医院がかかりつけ医となっており、継続して往診や通院で受診しています。隣町の総合病院が協力病院となり、眼科等必要な医療が受けられる支援がされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	県立阿南病院と契約し、毎週看護師を派遣していただくことにより医療機関との連携が密になり、迅速かつ適切な医療が受けられる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院については、契約看護師を介して病院と情報交換が密接に行われ、治療に専念できる環境づくりと共に早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取り指針を策定し、家族と終末期のあり方について早い時期から話し合いを行い、方針と対応を整えている。また、重度化した場合を想定し、医師の助言により家族との話し合いを実施している。	入居時に、ターミナルケアの基本理念等がうたわれている看取り指針に基づいて説明を行い、希望を聞いています。年1回は重度化や終末期に関するアンケートを行い、家族等の思いを確認しています。終末期になった際には、かかりつけ医を中心に家族等と話し合いながら支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	かかりつけ医や契約看護師から急変事の指導を受け、定期的に応急手当や初期対応の訓練を行っている。また、救急搬送の時、情報の伝達がスムーズに行われるよう救急カードを活用している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	近隣住民と災害発生時の救援提携が整っており、非常時には1分以内に駆けつけることができることが最大の力となっている。	今年度は9月に、地域の皆さんの協力を得ながら、火災を想定して実際に避難する訓練を実施しました。地区内の特別養護老人ホームとは、災害時に避難場所として協力してくれるよう話があります。	ハザードマップでは地すべり対象区域に入っており、具体的な避難対策を検討し、職員に徹底することが望まれます。想定外の災害が各地で起きている現状を踏まえ、災害が起きた後の体制の検討も含め、災害対策の充実が求められます。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	毎月の職員会において適切な声かけについて勉強し、その人らしい生活を支援すると共に、人権を尊重しプライバシーを損なうことがない対応に努めている。	入居者が恥ずかしいと思う言葉は、人前と言わないように心がけています。職員会での研修は、命令口調や制止する言葉がけについて職員同士適切な言葉かけをするよう具体的に学び、一人ひとりを尊重した支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活を送る中で、本人の思いやしたいことを聞き、何を選択するのか本人の意思を確認する支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの生き方や思い、ペースを優先し、その人らしい生活が送られるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その日に着る服を本人が選んだり、季節やその折々にあった身だしなみやおしゃれが楽しめるよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	四季折々の郷土料理を喜ばれ、材料作りから調理まで、その人ができることを分担し、楽しむことを大切にしている。また、一人ひとりの嗜好を把握し、食べやすい大きさ、柔らかさ、盛り付けなど食事に反映している。	一緒に準備や片付けができる人が少なくなっていますが、できることをやってもらっています。季節に応じてお彼岸にはおはぎ、収穫した野菜で料理する、庭で焼き肉など、食事を楽しむことができるように工夫して支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの食事量、水分摂取量を把握し、栄養バランスを考慮し楽しい食事になるよう心掛けている。また、非常勤管理栄養士の栄養指導も年数回受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	訪問歯科診療により一人ひとりの口腔状態を把握し、指導により毎食後、歯磨きまたは口腔内の清潔支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	全職員が、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。オムツに頼らない、排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用して、個々にあった支援をしています。オムツ交換は時間で交換していますが、状況をみながら水分摂取量もチェックして支援しています。立位が可能な方はリハビリパンツを使用して、日中はトイレでの排泄ができるように声かけや見守りをして介助しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事に配慮し、野菜等の繊維質の多い食材を使った料理を心掛けている。また、十分な水分補給と、できるだけ歩行を多くするなど運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	できるだけ本人の希望に添った入浴を心掛け、入浴剤や、季節には柚子などを入れ楽しい時間になるよう配慮している。また、自力で入浴できない方のためリフト浴を整備している。	入浴表を付けて、1週間に2回は入浴できるように、一人ひとりの状況を確認して支援しています。現在はリフト浴の方がほとんどですが、気持ちよく楽しく入れるように、しょうぶ湯やゆず湯など工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活習慣や活動状況、自然なリズムを把握し、その時の状況に応じた休息や、褥瘡防止に配慮しつつ気持ちよく睡眠できるような環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	意思や看護師の指導により薬の効果や副作用等について理解し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。また、本人の状態や経過等を医師へ情報提供し、治療に活かす取り組みを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯物の量みや食材作り、買い物や掃除、生きがいを感じる事など、その人の生活歴や持てる力を活かす取り組みを行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のの人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍においても、できるだけ本人の希望により行きたいところがあればいつでも出掛けることができる支援を行っている。また、花見など普段行くことがない場所へ出掛け、普段から焼き肉など屋外食を楽しむ取り組みを行っている。	コロナ感染防止に配慮しながら、近辺を車いすで散歩、ホームの前の畑に行く、庭で外食したりゆっくりしたりなどしています。季節に応じて、お花見や紅葉狩りドライブ、その他住んでいた家を見に来るなど希望を聞きながら取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	近くのスーパーへ職員が付き添い、自分で好きな買い物ができる支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙や年賀状を書いたり、家族や知人と電話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	地元産の木材を使用した、温もりや懐かしさが漂う住居で、玄関やホール等共用部はこの家にも共通するような居心地のよい空間となっている。また、玄関では季節の花を飾り、癒しの場ともなっている。	みんなが集まるホールには、季節感のあるものや生活感のある物が置かれています。トイレは混乱が起きないように分かりやすい表示がされ、浴室は重度化しても使いやすいように福祉用具があります。ゆったりと過ごせるよう様々に工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気のあった者同士が過ごせるホールの他、所々にイスやソファを配置し、一人きりになれる居場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人のプライバシーを大切に、田舎暮らしに慣れ親しんだ設計と、使い慣れた家具などを持ち込んで安心した生活が送られるよう工夫している。	入口には屋号や本人がわかる表札があり、居室内は使い慣れた家具、家族の写真、色紙、カレンダーなどがあり、それぞれが居心地よく過ごせるようになっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	食堂兼居間はバリアフリーで広い空間となっており、一人ひとりが思い思いに過ごし、自立した生活が送れている。 また、身だしなみが整えられるよう全室に鏡付きの洗面台が設置してある。		